



## JAPANESE LANGUAGE EDUCATION METHODS

第 51 回 日本語教育方法研究会  
国土館大学町田キャンパス（東京都町田市）  
2018 年 9 月 8 日（土）

9 月 8 日に国土館大学町田キャンパスで第 51 回研究会を開催いたします。今回も昼食交流会を企画しました。会場で昼食をとりながら、自由に楽しく意見交換をしていただければと思います。是非とも多数の方々にご参加いただけますよう、ご案内申し上げます。

会長 河野俊之

TABLE 1 第 51 回研究会開催について

日 時 :	2018 年 9 月 8 日（土）
会 場 :	国土館大学町田キャンパス
開催委員 :	栗原通世（国土館大学） 中川健司（事務局：横浜国立大学）

TABLE 2 開催スケジュール

午前		午後	
9:15	受付（発表者・一般） ポスター貼付	1:45	昼食交流会終了
10:00	開会の挨拶	2:00	総会
10:05	会の進め方の説明	2:30	口頭発表開始
10:10	口頭発表開始	3:30	ポスターセッション開始
11:10	ポスターセッション開始	5:00	ポスターセッション終了
12:40	ポスターセッション終了 午後のポスター貼付	5:05	講評・JLEM 賞発表 次回開催委員挨拶 閉会の挨拶
12:45	昼食交流会開始		参加者全員で片付け

### 【参加方法】

事前申し込みは必要ありません。直接会場においでください。非会員の方でも、会場で手続きをして参加することができます。皆様、お誘い合わせの上、ご参加ください。なお、会場での現金の授受はできるだけ避けたいと思いますので、会員の方、会員になるご予約の方は、事前の会費納入（p.12 参照）にご協力ください。

新規入会：3,000 円（年会費）

当日のみ参加：2,000 円

## 【プログラム】

### 【午前の部】

#### ●口頭発表（5件）

1. 短期留学生を対象とした日本語集中プログラムでの音声教育の取り組み—カンボジア人学生とベトナム人学生の発音の困難点に着目して—

矢野和歌子・石河祐子・清水昌子・山本恵美子（公益社団法人 国際日本語普及協会）

都内私立大学の留学生を対象とした15週間の日本語集中プログラムにおける音声教育の取り組みについて、調査結果と実践を報告する。調査結果から、カンボジア学生の発音の困難点が、「つ」と「す」、「し」と「ち」、「じ」と「ち」の言い分け、清濁、促音などであること、ベトナム学生の困難点が、「つう」と「ちゅう」、「ぞ」と「じょ」、「ね」と「え」、清濁などであることがわかった。また、修了時のアンケート結果からは、1日10分の音声教育であっても、学生が自分の発音を意識し、改善を実感していることが明らかになった。

2. 留学生の読解ノート作成スキルと内容説明文産出の関係

石井怜子（所属なし）・菅谷奈津恵（東北大学）

レポート執筆等に必要の文献を読んでノートを作成することは、大学生にとって重要なスキルの一つである。文献を正確に理解しつつ、事後の利用に備えてより利便性が高いノートを作成する必要がある。本研究は、学部1年の留学生3名が作成したノートを、内容理解と作成スキルの観点から分析した。その結果、重要情報の把握に差が見られた。共通して用いられる記号化や省略などがあつたが、内容解釈の表現形式には個人差が見られた。更に、ノートに基づいた内容説明作文の分析から、原文の言語表現への依存度が高いノートであると説明文が原文のコピーになりがちであるが、依存度が低いと説明が不正確になる傾向も浮かび上がった。

3. 留学生のキャリア形成における学生としての役割意識の変容—ライフスパン・ライフスペース理論的アプローチを枠組みとして—

李奎台（東京福祉大学）

本発表では、留学生の「学生」としての役割意識が、どのように変容するのかを明らかにし、彼らに必要な支援を提言したい。そのために、2名の韓国人留学生に対してインタビューを行い、そのインタビュー内容から、役割意識の変容を記述した。2名に共通する結果として、目標達成後（大学入学直後）と大学の最終学年時に、「学生」としての役割意識が低下し、「余暇人」としての役割意識が高まっていた。ただそれらの時期には、教室内での動機は低かったものの、教室外で日本人や留学生の友人と積極的に交流する様子が見られ、それらの交流を通して日本語を習得していると考えられた。発表では結果の詳細を報告し、教育への提言を述べる。

4. 多読から創作へ—中級日本語学習者を対象とした多読授業における試み—

池田庸子（茨城大学 全学教育機構）

多読授業では学習者が読むことに重きを置くため、学習者同士のコミュニケーションや自己表現の機会をいかにして多読授業に組み込んでいくかが課題となる。その対応方策として、ブックレポートやディスカッションによる学習者間の情報共有と表現活動を行い、授業の最終プロジェクトとして、学習者自身による多読本の創作を行った。創作活動は多くの多読本を読むことで得たインプットを学習者が創造的にアウトプットできる機会であり、様々な手法やテーマで自身を表現していることが示された。多読授業における多読本創作活動の成果及び問題点を検証する。

5. アカデミック・ライティングにおける間接引用で求められる要約とは

中村かおり（拓殖大学）・近藤裕子（山梨学院大学）・向井留実子（東京大学大学院）

アカデミック・ライティングにおいて引用の指導は欠かせないものであるが、その効果的な指導法は十分検討されているとはいえない。特に間接引用については、原文を要約して行う引用と説明される傾向が見られるものの、要約を引用にどのようにつなげるかという論考はごくわずかである。一方で、要約指導は読解・作文指導の一環として長きにわたって実践・研究されてきており、その知見も蓄積されてきている。もし、読解・作文指導における要約が間接引用の要約と等しいならば、それらの知見を引用指導に生かすことができるはずである。

そこで、本稿では、これまで異なる場面で用いられてきた要約は共通するのか、先行研究を踏まえて明らかにする。

●ポスター発表（上記5件を含む21件）＊事情により26番の発表は午前の部で行います。

#### 6. 中級アカデミッククラスにおける多読活動の試み—看図作文を用いた産出量の変化—

横山理恵子（名古屋経済大学）

本稿では中級アカデミッククラスにおいて多読活動を取り入れた授業を行い、授業記録を基に実践報告を行う。本稿でいう多読活動とは、学生各自が辞書なしでも読めるレベルの興味関心がある内容の本を読み、読書レポートを書き、話し合いを行い、発表するという一連の流れを指す。またこの多読活動が学生の産出量にどれ程変化をもたらすのか看図作文を用いて、多読活動を行う前と後で文節数を比較した。結果、学生は授業回数を重ねるたび能動的に授業に参加するようになり、全ての学生が一文あたりの文節数を増やした。特に、多読活動前の看図作文で文節数が少なかった学生ほど多読後との差が大きくなる傾向にあることがわかった。

#### 7. 数学科目に対応した漢字練習帳作成

青木由香利（東海大学）

筆者はこれまで一般的な物理や数学に対して漢字練習帳を作成方法を研究しているが、今回は学部開講科目である「微積分」と「線形代数」の教科書にそれぞれ対応した漢字練習帳を作成した。作成方法は、テキストマイニングソフトを使い、キーワードを検索した。ここで出てきた語彙のうち、数学の専門用語と数学独特の言い回しなどを選択した。漢字練習帳のレイアウトは、これまで同様、書き順・ふりがな・英訳と3回程度かけるブランクスペースを配置した。本論文では選出されたボキャブラリーと漢字練習帳のレイアウトを示す。

#### 8. 聴解口頭能力の育成を目指した授業における学習者の変化

大河内瞳・石橋美香（立命館大学）

本稿では、初年次教育における聴解口頭の授業での実践と、一年を通じた学習者たちの変化を報告する。本研究で対象とする聴解口頭の授業は、大学生として求められる聴解口頭能力の育成を目指したもので、本稿では特に口頭表現能力の育成に関する実践に焦点を置く。前期は1分・3分・5分スピーチ、ディスカッションを、後期は一人ディベート、ディベート大会、ビブリオバトルを実施した。学習者のスピーチや発表の録音・録画、発表やディベート後の振り返り、アンケート、また一部の学習者に行ったインタビューから、日本語能力や口頭表現能力における変化が明らかになった。

#### 9. ビジネス文書における接続詞「つきましては」の使い方

加藤恵梨（大手前大学）

ビジネス文書でどのような表現を用いるかは日本語学習者だけではなく、日本人学生にとっても難しい問題である。本発表は、ビジネス文書で多用される接続詞「つきましては」について、市販のビジネス文書で提示されているモデル文を調査・分析することにより、その使い方および意味について明らかにすることを目的とする。分析結果をもとに、「つきましては」は書き手側の状況・心情を説明し、おしつけがましい態度や高圧的態度にならないように、読み手側に申し入れをするときによく用いられる表現であるということを述べる。

#### 10. 「先輩留学生の体験談」を読む活動における教師の役割—話し合いの発話の分析をもとに—

中井陽子・菅長理恵・渋谷博子（東京外国語大学）

キャリア形成支援を目的とした「先輩留学生の体験談」を読む活動を中級日本語クラスで実施し、活動における教師の役割について、授業中の話し合いの文字化資料を基に分析した。その結果、教師は、進行（活動指示）、司会（問題提示、指名、話の整理、まとめ等）、解説（語彙・表現の説明、社会文化的知識の提示、自身・他者の体験談の紹介）、意見表明、助言の他、聞き手としての反応（相槌、評価的発話、同意、非同意等）、発話支援（発話形成の補助、言い換え、確認、補足質問、励まし等）を行っていた。それらの発話により、教師は、学習者の発話を促し議論を深める役割を果たし、学習者のキャリア形成に繋がる学びを促進させようとしていた。

#### 11. 日本語教師と TA による作文フィードバックの実践—評価観を自覚するための試み—

益本佳奈（立教大学大学院生）・嶋原耕一（立教大学）

本発表では、日本語教師と TA による作文フィードバックの実践について報告する。作文フィードバックには、どの項目が重要なのかという、教師個人の評価観が影響する。しかし、教師が自身の評価観を自覚する機会は多くない。そこで筆者らは、自身の評価観を自覚し、より適切なフィードバックができるようになるために、教師と TA として作文フィードバックの比較を行った。評価対象としたのは、所属大学の総合日本語コースにおける、中級学習者 18 名の作文である。結果、教師が重要だと考えたフィードバックには「構成」に関するものが多いことなどが分かった。発表では結果の詳細と、内省により明らかになった両者の評価観を、提示したい。

#### 12. 生教材としてのオンデマンド放送利用の効果—学習者及び教師の視野拡大という視点から—

志賀玲子（一橋大学）

オンデマンド放送利用の実践報告を行う。毎視聴後行った学習者の記述が本論のデータである。日本の時事問題や社会現象を知り、外から見ていた日本とは違う側面を認識したという声が多くあがった。自国ではどうか、持続性に問題はないか等、多角的かつ批判的に考える姿勢も見られた。また、教師自身も適切な番組選定のため番組チェックをする等、教科書と向き合う際とは異なる自己研鑽が求められた。日本語教育も IT 化に対応し教材開発等が進んでいるが、教師自身が時流を知り、時には認識を刷新すべき時代において、効果的な鍛錬ともなる。オンデマンド放送は、学習者・教師両者にとって、多角的な思考養成に適した生の学習リソースとなり得る。

#### 13. 人文系大学院における言語技術の授業実践—言語科目と専門科目における文章作成および口頭発表の役割—

木戸光子（筑波大学）

本発表では、人文系大学院の留学生対象の上級作文の言語科目、および大学院の日本語教育の専門科目という 2 種類の授業における言語技術に関する授業実践を報告する。上級作文の言語科目では、上級レベルの留学生の修論研究の準備段階として授業が位置づけられる。授業では言語技術の教科書を学習者が分担して口頭発表を行い、ミニレポートを作成する。さらに、修士論文研究を踏まえて期末レポート作成をする。一方、日本語教育の専門科目では、2 編の論文を比較する文献講読発表とミニレポート作成、さらに期末課題としてポスター発表とレポート作成を行う。どちらの科目でも言語技術の習得が授業目標達成には重要である。

#### 14. 中国人中級日本語学習者の日中同形類義語学習に対する誤ったスキーマの修正—意味用法の異同の意識化を通して—

王雅格（早稲田大学大学院生）

私たちは日常で起こっている何かを理解するために、常識の知識（スキーマ）を使っており、スキーマは外国語学習にも存在する。日本語と中国語とともに漢字を使って表記するが、日中両語の間に意味の異同がある。中国人日本語学習者はそれに気づかず、漢字で表記する日本語が学びやすいと思い込んでいる。このスキーマは日中同形類義語（例：「緊張」）である日本語の学習を妨げてしまう。日中同形類義語の学習にとって重要な第一歩は、その誤ったスキーマを修正することである。そのため、学習者が誤ったスキーマを修正するには、彼らの思い込みと矛盾する現象を経験して自分の思い込みがおかしいことを納得する必要がある。そこで本研究では、日中同形類義語の意味の異同を意識する指導を試みた。

#### 15. 頻度順・語彙先習での中級漢字語彙学習

平山允子（日本学生支援機構）

中級漢字の授業において、漢字と語彙を同時に学ぶという従来の方法を見直し、約 4 か月間にわたって新しい方法を実践した。教科書掲載の漢字語を「現代日本語書き言葉均衡コーパス」における出現頻度順に並べ替え、仮名書き、例文付きで掲載した教材を新たに作成した。学生たちは、これを用いて、各回の授業で 16~17 の語を学び、3 回後の授業でそれらの語の漢字表記を学んだ。従来学習方法との違いによる混乱も見られず、実践対象クラスの学生たちの学期中の形成的テストの得点率平均は毎回 86%以上、学期末試験「文字・語彙」科目の偏差値平均は過去 3 回の学期末試験での 50~51 程度を上回る 55 程度となった。

## 16. 中級日本語学習者に対する段階的文章指導法

板屋登子（創価大学大学院生）

本研究は、論理学を活用した一貫性・結束性の向上を目指す談話構成指導を提案するものである。従来、文法や語彙に偏りがちだった指導に対し、現在の文章指導ではさまざまな改善が見られる。しかし、談話構成指導に関しては、多くの作文教科書は重要であるとしながら、大まかな構成を示すだけであったり、効果的な練習方法がなかったりと表面的な指導にとどまってしまっている。そのため、本研究では学習言語能力の観点から論理学を活用し「同内容の文章を異なる文章構成で」また「異内容の文章を同じ文章構成で」書いたらどうなるかなどを接続詞や「のだ」の機能に着目しながら学生に考えさせ、まとまりのある文章を書く力について考察する。

## 17. 中国人日本語学習者の発音に対する考え方及び発音学習方法についての研究

末延麻子（九州大学大学院生）

本研究は、学習方法の中でも発音学習方法に注目し、中国人日本語学習者の発音学習方法の実態について調査したものである。学習者によって発音に対する興味や意識の度合いは異なり、それによって学習方法にも違いがあると考えられる。本研究では異なるレベルの学習者を対象にし、①日本語の発音に対する意識や考え方、②発音学習についてアンケートにより調査を行った。発音学習についてのアンケートでは、それぞれの項目についてどのくらいの頻度で行うかを選択してもらい、項目以外にも行なっている学習方法も併せて記入してもらった。

## 18. モンゴルとパラグアイにおける日本の教育システムを参考にした初中等教育機関の比較 —日本留学経験者が設立した学校—

今井智絵（横浜国立大学大学院生）

本発表は、モンゴルとパラグアイにある日本留学経験者が設立した初中等教育機関2校を比較し、日本語教育の実施の実態や日本の教育・文化の導入について調査したものである。調査は、訪問経験のある人への聞き取りや文献資料をベースに、設立の理由や目的と共に日本語教育についても行なった。その結果、両校とも日本留学経験者が日本留学で得たこと母国の社会に還元しようとしている点は同じだが、日本語教育に関しては地理的な距離や社会的背景の影響が見られた。モンゴルの学校では日本留学を目標にしているのに対し、パラグアイの学校では日本文化を学ぶための日本語教育と位置付けられていた。

## 19. ある日系ペルー人留学生の日本語学習および日本語に対する意識のあり方—日系ペルー人留学生エリカの語りを事例として—

佐々木ちひろ（名古屋大学大学院生）

本発表では、ある日系ペルー人留学生の日本語学習および日本語に対する意識のあり方について論じる。日系ペルー人留学生エリカにインタビューを行い、その語りを質的に分析した。その結果、何のために日本語を学ぶのか、何をするための日本語なのかという、エリカの日本語学習や日本語に対する意識、そして日本語学習経験の積み重ねの中でその意識が変容していく過程が明らかになった。発表では、意識とその変容の過程の詳細とともに、多様な背景をもつ学習者の個別的な意識のあり方を思慮した日本語教育の必要性について論じる。

## 20. 日本語で読んで考える「日本文学と文化」—日本文学非専攻の学部留学生を対象に—

山崎智子（東京福祉大学）

本発表では、日本文学非専攻の学部留学生を対象とした授業「日本文学と文化」での実践を報告する。この授業では、日本文学の知識を養うことを主たる目的とはせず、日本語で読み取った作品の内容に関して、自分の見解をまとめて話せるようになることを到達目標とした。教材として、現代語訳された『徒然草』を扱った。数多くある現代語訳の中から平易な表現のものを選び、精読後、各自発表させた。学生の読解力に不足があっても授業で文学作品を扱うにはどうしたらよいか、またこれまで文学に関心がなかった大半の学生が文学作品に接することで、日本語読解教材とは異なる学習効果がどのように見られたかについても、議論を提示するものである。

## 26. 在日外国人の自主的に生活情報が収集できる日本語学習アプリ開発について—「広報誌」を用いた学習内容作成—

村田志保・沈佳琦（保育・介護・ビジネス名古屋専門学校）

中野（2002）では、在日外国人が増えるにつれ、行政の対応が追い付いていない現状を指摘し、これを克服するひとつとして「広報誌」の多文化を主張している。在留外国人数 256 万 1,848 人に達した昨今、このような現状がいまだに残っている。そこで、本開発は自治体で発行されている「広報誌」の記事を「漢字→語彙→単文→文章」という項目に細分化し、漢字から文章へ縦断的に学べる学習アプリに仕上げていくもので、また各学習項目に「英訳」と「やさしい日本語」を提示することで辞書を使わず学習でき、紙媒体教材ではできなかった反復練習も可能である。本発表では、「広報誌」記事の選定を中心に制作プロセスを提示するものとなる。

### 【午後の部】

#### ●口頭発表（5件）

## 21. メールタスクにおける「V ようと思う」の使用状況—日本語学習者と日本語母語話者の違いに着目して—

金蘭美（横浜国立大学）・金庭久美子（立教大学）

本発表は、メールタスクにおける「V ようと思う」の使用状況について、日本語学習者（韓国・中国・ドイツ）と日本語母語話者の各 30 名を対象に調べたものである。このメールタスクは花見の持ち寄りパーティーに何か持ってきてほしいという依頼に対し返信するというものであるが、日本語母語話者は「～を持っていこうと思います」や「～を持っていきます・いけそうです」を使用しているのに対し、日本語学習者は「～を持っていきます・いけそうです」の使用は見られたものの、「～を持っていこうと思います」の使用が全く見られなかった。この結果から「V ようと思う」の使用場面について再考し、指導方法や時期などを検討する必要がある。

## 22. 学習者の専門性を生かした読解教材作成の実践報告—工学部広報誌を教材化した事例について—

古市由美子・内田あゆみ・中村亜美（東京大学大学院工学系研究科日本語教室）

本実践では、学習者が専門知識を生かし、工学部の広報誌を教材化することによって、以下の3点を目指した。1) 工学系分野の研究内容を中心とした読解力を養成する。2) 科学技術の専門語彙や表現を習得する。3) 読んで理解したことを問題作成や発表を通して自分のことばでまとめる力を養成する。実践の結果、学習者が専門分野に関する読解教材を作成することにより、読む動機付けを高め、主体的な読解が実現できた。また、作成した教材を他の学習者に知識や経験を踏まえ発表することは、学習者の意欲を刺激し、互いに学び合う授業実践となった。このような読解教材を作り続けることは、日々進歩する工学系分野において意義がある。

## 23. 日本語授業場面における葛藤の原因帰属とその改善策—民間日本語学校の教師と学習者の比較—

水野瑛子（名古屋大学大学院生）

本研究では、民間日本語学校の教師と学習者の葛藤場面の原因を質問紙調査によって調査した。また、葛藤に対しての改善策についても調査し、教師と学習者の意識の違いを分析した。その結果、葛藤場面の原因については、教師と学習者は共通した考えを持っていたが、改善策については意識の違いが見られた。本研究で調査した葛藤場面に対しては、教師は教師自身の授業を改善したほうが良いと考えているが、学習者は教師に目的や目標を促されるのが効果的であると考えていた。このような結果を踏まえ、葛藤場面の解決には、両者の意識の違いに即した改善策を考えていく必要があるのではないかと考える。

## 24. 複言語環境・複言語使用と日本語学習者のビリーフ

良永朋実（九州大学大学院生）

本研究は、複言語環境下で生活していた日本語学習者が持つ言語学習ビリーフについて調査したものである。Horwitz(1987)が構築した質問紙 BALLI の質問項目を基に、複言語環境下の日本語学習者と単言語環境下の日本語学習者それぞれに対して半構造化インタビューをおこなった。単言語環境下の日本語学習者が持つ言語学習ビリーフと比較することで、複言語環境と複言語使用が彼らの持つ言語学習ビリーフにどのような影響を与えているのかを考察した。

## 25. 視覚に障害のある学習者を対象としたオンライン通話システムによる日本語授業の実践報告—Skype による授業の可能性と課題—

河住有希子（日本工業大学）・浅野有里（日本国際教育支援協会）・北川幸子（神田外語大学）・藤田恵（立教大学）

視覚に障害のある学習者は、学習に用いるツールが晴眼者と異なるため、晴眼者との一斉授業には困難さを伴う場合がある。そのため、初学者は学ぶ機会を得ることが難しく、学習を始めたとしても継続的な学習の機会は限られているのが現状である。応募者らはこの状況への対応策の一つとしてオンライン通話システムによる授業実践に取り組んだ。その結果、対面授業においても主として音声を通して学ぶ視覚障害者にとって、オンライン通話システムは有用な媒体であることが分かった。本発表では、Skype での視覚に障害のある学習者を対象とした授業の実施方法を報告し、授業運営上の課題と、更なる活用に向けての展望を述べる。

### ●ポスター発表（上記5件を含む19件）

## 27. 韓国の中学校「生活日本語」教科書における言語行動文化教育内容の考察

金ヘイン（横浜国立大学大学院生）

2015年の国際交流基金調査によると韓国の日本語学習者数は55万人を超え、約81.2%の日本語学習者が中等教育機関で日本語を学習している。韓国の中高等教育での日本語教育は1972年高校生を対象にして始まり、2001年第7次教育課程から中学生の選択科目として採択された。本研究は2015年改訂教育課程で使用されている「生活日本語」認定教科書の中の5種(1種生産中止)の日本文化教育セクションを分析し、言語行動文化に関する教育内容をコミュニケーション教育の観点から考察する。

## 28. 日本語教師養成課程における「日本語文法論」の実践—わかりやすい誤用訂正の活動を通して—

斉藤紀子（横浜国立大学）

発表者は2016年度より日本語教師養成課程において主体的かつ現場につながる「日本語文法論」の指導を目標とし、実践を行っている。本発表では、誤用の文例を正し、わかりやすく説明する活動について報告する。誤用文は授業で取り上げた文法項目に関連するものを発表者が選定し、受講者にその訂正と初級学習者を想定した説明を課した。説明の様子は録画し、振り返りを行い、改善を目指した。その結果、受講者は日本語教育の視点でわかりやすく文法の問題について説明をするためには、自らが文法知識を身につけるだけでなく、説明の仕方にも工夫や配慮が必要なことに気づき、実践が進むにつれて、その説明のわかりやすさには改善が見られた。

## 29. 海外での日本語教育経験は、その後の実践にどう活かされているか—複数の教師が協働で振り返る活動を通して気づいたこと—

清水由貴子（聖心女子大学）・松尾憲暁（名古屋大学）・渋谷博子（東京外国語大学）・伊達宏子（東京外国語大学）

4名の教師が海外での日本語教師経験について互いに語り合い、協働で振り返る活動を行った。まず、各自が自身の海外での日本語教師経験について、他の教師との連携に焦点を当てて語る活動を行った。次に、その語り自身で振り返るために、ティーチング・ポートフォリオ・チャートを作成し、その後TPチャートをもとに教師間の連携についての理念を互いに説明し、共通部分についてまとめる活動を行った。この活動の過程を録音し、文字化したものをSCAT (Steps for Coding and Theorization) の手法を用いて分析した。その結果、日本語教育の現場における教師間の連携に対する共通したビリーフが浮かび上がった。

## 30. ベラルーシ人日本語学習者の語りから再考した日本語学習の意義と自己実現の可能性

石橋美香（立命館大学）

ベラルーシは、在留邦人の数も少なく、教室外での日本語使用の機会および日本人との交流も極めて稀であり、日本語を活かした就職先はほとんどない。また、日本留学の機会も非常に限られている。本稿では、大学卒業後に自ら訪日する機会を得たベラルーシ人日本語学習者にインタビューを行い、自身の日本語学習および日本語使用の機会を振り返ってもらった。結果、日本語を学ぶことで新たな道に進むことができ、直接的ではなかったが自己実現もできていることが明らかとなった。

### 31. 中上級日本語学習者のための副詞選定—「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」・「名大会話コーパス」を基に—

島崎英香 (恵泉女学園大学)

中級以上になると事物の単純な描写だけではなく、より詳しい描写や自分の感情を細かく表現したいという学習者も増えてくる。教科書でも学習者が触れる副詞が急速に増える一方、副詞は表現者の心理・視点が多く表れるという特徴を持っており、教師、学習者にとって悩ましい語彙であるという話をよく聞く。そこで学習者にとって優先されるべき副詞を選定できれば学習者の負担も軽減出来るのではないかと考えた。副詞選定のためにBCCWJ と名大会話コーパスから副詞を抽出し頻度表を作成し、島崎 (2015) で選定した初級副詞、『日本語能力試験出題基準』、『日本語の語彙特性』親密度調査を参考に中上級学習者のための副詞を選定した。

### 32. アニメを用いた授業の可能性—授受表現「あげる」「もらう」「くれる」の指導—

神夏磯晴香・泉祐花・大久保亜紀 (神戸松蔭女子学院大学大学院生)

近年、日本語教育の現場においてアニメやマンガを用いた授業は注目を集めている。今回、発表者はアニメを使用し「授受表現」の指導を行った。今回の調査目的は、アニメという映像を用い、コンテクストを意識させることで理解が深まり、長期記憶につながるかどうかを調査するためである。実験群と統制群とに分け、3回調査を行った結果、アニメを用いて授業を行った実験群のほうが得点の下落率が低く、長期記憶につながる結果となった。しかしながら、アニメを用いて「授受表現」を指導する際の注意点も新たな課題として見つかった。本発表では、授業実践とその結果、これからの課題について報告する。

### 33. 学部留学生の自律的学習能力の向上を支援する日本語学習活動

長谷川順子 (九州大学大学院生)

本発表は、学部留学生の自律的学習能力の向上を支援するために行った日本語科目での活動の影響を検証し、その上で、個人的な傾向によりよく対応するための示唆を検討するものである。自律的学習能力向上にはメタ認知活性化の有効性が知られており、これを促すと考えられる「ストラテジーの明示的提示と利用機会の提供」「自省活動の定期的実行」を学習活動に組み込み、学習者のメタ認知の変化を観察した。行った活動はメタ認知と自律的学習能力の向上を促すと考えられたが、学習方法の拡張に消極的な学習者も見られ対応が必要と考えられた。学習スタイルの自覚と拡張への促し、評価についての不安の軽減の措置等が有効な対応となる可能性がある。

### 34. 国定教科書から考察するミャンマーの理数教育

田辺直行 (日本学生支援機構)・高岡邦行 (日本工業大学)・喜古正士 (早稲田大学)

外国人留学生が増加しているなか、高等教育機関進学後の専門科目へのスムーズな連携が求められている。その中で、ミャンマーからの学生が理数系の学習に苦労しているという報告[1]がある。筆者らは、言語の異なりによる差異と、カリキュラムの異なりによる差異を切り分けるため、日本の検定教科書とミャンマーの国定教科書の比較調査を行った。その過程で、今まで大枠では既習と思われていた分野にも、多くの未習事項が存在することが判明した。本発表では、数学におけるベクトルの分野を中心に、隣接科目である物理での扱われ方にも言及し、予備教育における教科間と日本語教育との連携を模索する。

### 35. 教師の介入がグループ活動に及ぼす影響—読解授業における再話活動の分析から—

村田竜樹 (名古屋大学大学院生)

中上級レベルの日本語学習者を対象とした読解授業において、学習者らがテキストの解釈を自分自身の言葉で伝え合い、グループで解釈を協働的に構築する活動を行った。その過程では、学習者同士では解消が難しい疑問が生じることがある。そのような場合、疑問の解消に向け、教師が学習者の対話に介入することがある。本発表では、グループで疑問が生じた際に行われる教師の介入が、グループ内の対話にどのような影響を与えるのかについて分析した。その結果、解釈の可能性を選択肢として示すような教師の介入が「権威的な言葉」となり、対話を限定し方向づけてしまう可能性が示唆された。



### 36. 初級教室活動におけるイラストの活用 - スライド教材化の効果について -

前田真紀・藤森弘子（東京外国語大学）

スライド教材化したイラストは、教室活動のスムーズな進行や活性化に効果的である。初級教室活動においては紙版の絵カード等も有効に利用されているが、イラストをスライド教材化することで、絵カード以上の活用が可能となる。活用例としては①複数枚同時表示②必要な情報（語彙・文型・吹き出し・音声など）の追加③大きさ、動き、色付けなど変化や強調④視点や文型に内在する感情などの可視化、などがあげられる。また、スライド教材化する際、編集や加工が容易、USBなどで大容量保存が可能、持ち運びが簡単などの利便性もある。教室活動全体の流れの中にスライド教材を適宜組み込み使用することで、授業活動の効率化、活性化が図れる。

### 37. 「レジュメ作成と複数回発表」で構成する読解授業の実践

和田礼子（鹿児島大学）

2、3人のチームで協力して文献を読み、レジュメを作成、少人数のグループ内で発表するという活動によって構成される読解の授業を行った。大学の授業では指定された文献を読み、レジュメを作成して発表するという活動が頻繁に行われるが、他者への説明を前提にしたレジュメ作成は、理解した内容を再構築する過程で文章を深く読み込むことが要求される。レジュメ作成を協働学習として行うことで、学習者にとっては活動の目的が明確化され、自然な形でのピア・リーディングが観察された。

### 38. 初級文法導入及び練習のためのeラーニング教材

河野俊之（横浜国立大学）

多様な学習者のレディネス、ニーズに対応するため、初級文法項目の導入方法およびそのためのeラーニング教材の開発を行ったので報告する。アクティブ・ラーニングに対応するため、複数の絵を示し、学習者に文法項目の用法を推測させ、学習者と教師や、学習者同士でやり取りを行いながら、用法を理解していく方法を試みた。また、それについて、自宅等で学習者が独学する際に、推測の正誤を確認できるように、学習者の母語等の媒介語での用法の簡潔な説明とその用法にあたる学習者の母語等を示すことができるようにした。さらに、独学で練習ができるようにした。

### 39. 日本語学習者の受身文の運用能力をいかにレベルアップさせられるか-中級レベルの文法クラスにおける実践を通して-

清水春花・肖宇彤(筑波大学大学院生)・許明子(筑波大学)

許他(2013)によれば、中級レベルの日本語学習者は受身文の文法項目を簡単だと捉らえている一方で、実際には運用力に繋がりにくく、習得されにくいと項目であるという。筆者らは中級レベルの文法クラスで受身文の習得を促進することを目的として以下の二つの実践を行った。①受身文の特徴（主語の選択）を明示的に指導する②ストーリー・テリングとピア活動を取り入れたタスクを遂行する。本発表では二つの実践における指導法と効果について報告する。実践の結果、両方とも受身文が使われる文脈の正誤の判断には効果が見られなかったが、①では構文の正確さ（主語の選択）の理解に、②では受身文の使用場面の理解に、有効であることが分かった。

### 40. 日本語を第二言語とする話者同士の雑談の分析-スマートフォン使用が会話のし方にどう影響するか-

大津友美（東京外国語大学）

日本語を第二言語とする者同士の雑談を観察すると、相手の発した語の意味がわからない、言いたいことはあるが適当な日本語の語が思い出せないなどといった理由で、会話参加者がスマートフォンを使用しインターネット上のサイトにアクセスしたり、辞書アプリで調べたりすることがある。そのような時には、会話参加者同士の視線が合っていないか沈黙が起こったりするが、会話参加者はそのような問題にどう対処して、会話を進めていくのだろうか。本研究は、会話場面のビデオデータを観察することにより、スマートフォンの使用が会話のし方にどう影響するかを論じたい。

## 【会場案内】

### 国士舘大学・町田キャンパス

<https://www.kokushikan.ac.jp/access/machida/>



### ■ 新宿からのアクセス(時間・料金)



### 国士舘大学・町田キャンパスへの主な交通機関

※( )内は目安となる所要時間

小田急線 鶴川駅(北口)前バスターミナル2番乗り場から 神奈中バス・小田急バス「六丁目」「センター」「北廻り」のいずれかを經由する「鶴川団地行」乗車、「給水塔前」(鶴川団地/町田市)下車(約10分) + 町田キャンパス東門まで徒歩約3分。(バス運賃・時刻案内 <http://www.kanachu.co.jp/dia/index.html> 鶴川駅 9:05, 15, 25, 35 発は10時開会に間に合います。)

#### 小田急線新宿駅より

小田急線 新宿駅(快速急行・急行) → 新百合ヶ丘駅(各駅停車・準急) → 鶴川駅(北口) (約30~35分)

#### 羽田空港より

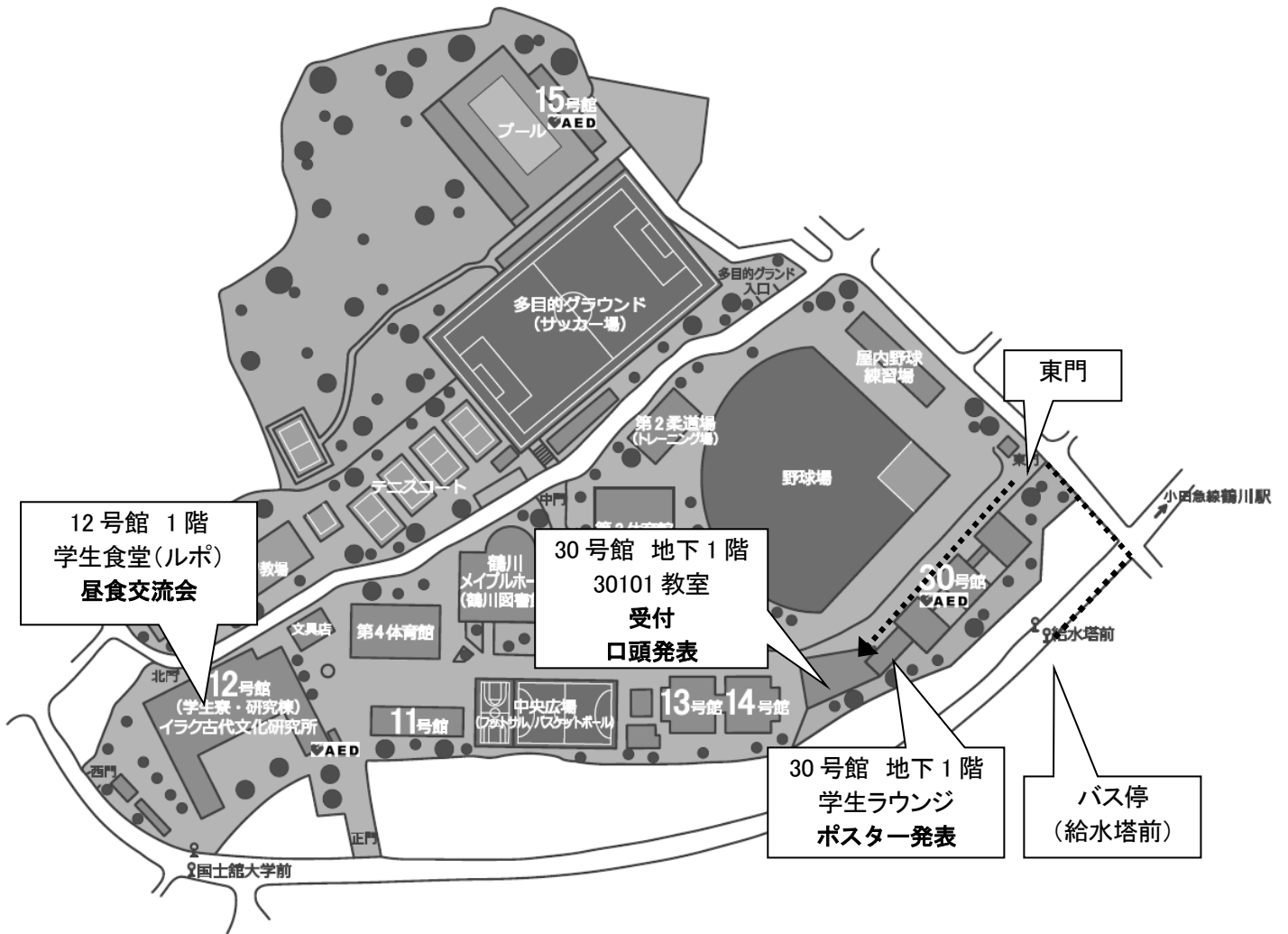
京急線 羽田空港国内線ターミナル駅 → 品川駅 → JR 品川駅(山手線外回り) → 新宿駅 → 小田急線新宿駅(快速急行・急行) → 新百合ヶ丘駅(各駅停車・準急) → 鶴川駅(北口) (約90分)

京浜急行バス・小田急バス・東急バス 羽田空港第1ターミナル・第2ターミナル → 新百合ヶ丘駅(約70~90分) → 小田急線新百合ヶ丘駅(各駅停車・準急) → 鶴川駅(北口) (約4分) など

#### JR 新横浜駅(新幹線)より \* 東海道新幹線をご利用の場合は東京駅よりも新横浜駅の方が便利です。

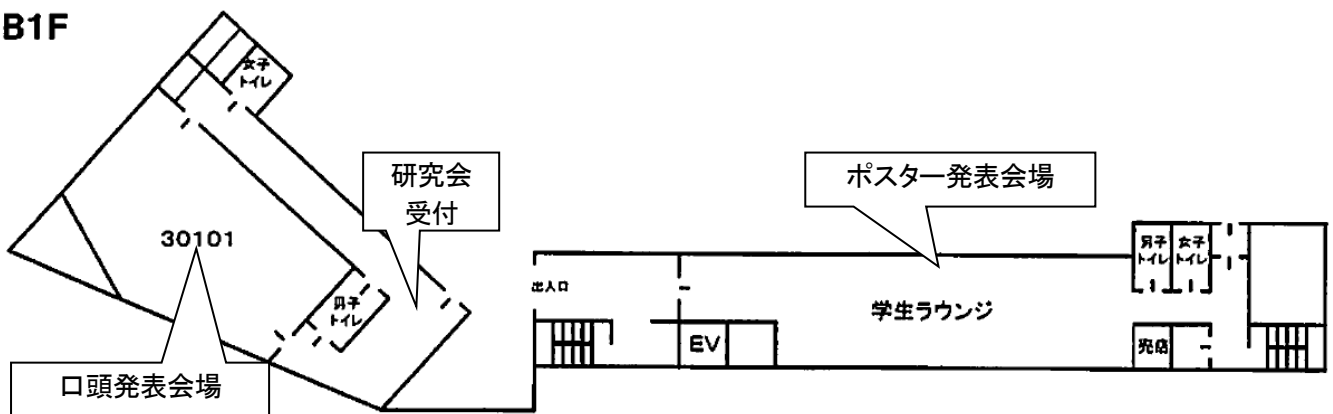
新横浜駅(快速・各駅停車) → 町田駅(約25分) → 小田急線町田駅(各駅停車・準急) → 鶴川駅(北口) (約6分)

○キャンパスマップ



○会場内案内図

B1F



【昼食について】

今回も午前のポスター発表終了後、12号館1階学生食堂ルポにて昼食交流会を行います。ぜひご参加下さい。先着80名となりますので、お早めにお申し込み下さい。申込は当日受付にてお願いします。会費は1000円です。昼食をとりながら、参加者のみなさんと自由に楽しく交流しましょう。

バス停・給水塔前付近にコンビニエンスストアがありますが、それ以外、大学周辺に店はありません。また、当日大学食堂は営業していません。

## 【会費納入のお願い】

JLEM では 4 月から翌年 3 月までを会計年度としております。2018 年度会費 (3,000 円) 未納の方は早急に納入いただきますようお願いいたします。2 年分未納の場合は会員資格を失います。会費は、会場の混雑を避けるためにも、可能な限り、事前に郵便局にて下記の口座に「電信振込」でお振込みください。郵便局に口座を持っている場合、振り込み手数料は無料になります。ご不明な点がおありでしたら、jlem-ml#jlem-sg.org (#は@です)まで e-mail にてお問い合わせください。

【振込先】 (1) 郵便局の「電信振込」で払い込む場合

記号：10140 番号：69076511 加入者：日本語教育方法研究会

(2) 銀行から振り込む場合

銀行名：ゆうちょ銀行

店名：〇一八 店 (ゼロイチハチ店) 金融機関コード：9900 店番：018

預金種目：普通 (または貯蓄) ※預金種目は「普通」「貯蓄」のいずれでも振込可能

口座番号：6907651

口座名：日本語教育方法研究会